

## 連載 ギラヴァンツは北九州に何をもたらすのか—第 12 回— 「北九州スタジアム」への期待

北九州市立大学都市政策研究所准教授 南 博

### 1. 北九州市の新スタジアム整備の新たな動き

#### 1.1 スタジアム整備を巡るこれまでの経緯等

2014 年はブラジルでの FIFA ワールドカップ開催などを通じ、サッカーが日本と世界各国を結ぶ大きな存在であること、また、スタジアムの存在が立地都市と世界各国を結ぶ大きな可能性を有すること<sup>(注1)</sup>を改めて実感する年であった。

一方、2014 年はギラヴァンツ北九州の新しい本拠地となる北九州市の新スタジアム整備事業が新たな局面に入った年でもあった。本連載では第 4 回（2012 年 9 月号）において「北九州市の新球技場整備事業」を取り上げているが、今回はその後の動向に焦点を当て、改めてスタジアムの話を取り上げることとする。

この事業に関するこれまでの主な経緯を表 1 に示す。なお、この施設は 2014 年 1 月まで新「球技場」と称されていたが、PFI（Private Finance Initiative）事業の公募にあたり、新「スタジアム」という名称に変更された。これは、当該施設が球技（サッカー、ラグビー）以外にも多様な用途（グラウンドゴルフや子どもへの芝生開放、あるいは各種集客イベントの実施など）を想定しているため、より幅広い意味を持つ「スタジアム」を用いることにしたものである。2014 年の北九州市議会 9 月定例会で関連条例が改正され、施設の正式名称は「北九州スタジアム」と定められた<sup>(注2)</sup>。

事業の必要性・有効性については、北九州市公共事業評価に関する検討会議等において、「現在、ギラヴァンツ北九州が本拠地としている市立本城陸上競技場は、Jリーグの J1 ライセンスを取得できないこと（＝ギラヴァンツは J1 への昇格が不可能）」、「市立本城陸上競技場における陸上競技等との利用調整に課題があること」、「スタジアム整備は様々な形でスポーツ振興に広く寄与することが期待されること」、「小倉駅新幹線口等のまちのにぎわいづくりに寄与することが期待されること」等が挙げられている。また、筆者が 2013 年に行った調査（南、2014 を参照のこと）では、現在の本城でのスタジアム観戦者の 67% が乗用車で来場し、公共交通利用者は 13% 程度にとどまるのに対し、新スタジアムが整備された場合は乗用車利用が 21%、公共交通利用が 55% になると見込まれ、公共交通機関利用者が大幅に増える点が明らかとなった。環境負荷の軽減や、中心市街地での買い物・飲食等の経済活動の促進が期待されると言えよう。

ちなみに、J1 ライセンスの取得可否を巡っては、以前から「スタジアムを造っても、ギラヴァンツは J1 昇格できる力が無いのではないか」との意見が散見されていた。しかしながら、本稿執筆時点（2014 年 9 月初旬）においては、2014 シーズン日程の 7 割を消化した段階でギラヴァンツは J2 リーグ戦で 22 チーム中 4 位に位置し、J1 昇格権利の獲得圏内にいる。（ただしライセ

表1 北九州市の新スタジアム整備事業の主な経緯等（2014年8月末時点）

年月	出来事
2007年4月	市内のサッカー、ラグビー関係団体が、2.5万人収容の専用球技場の建設要望を市に提出。
(2008年)	サッカークラブのニューウェーブ北九州（当時）がJFL昇格およびJリーグ準加盟。
2008年3月	北九州市スポーツ振興審議会が、Jリーグ規格を満たした球技場の優先的整備を提言。
2008年12月	『元気発進！北九州』基本計画で高規格・大規模な球技場の整備の検討推進を位置づけ。
(2010年)	2009年秋にニューウェーブ北九州のJリーグ加盟決定。ギラヴァンツ北九州に改称し、2010年3月から北九州市立本城陸上競技場を本拠地としたJリーグ公式戦を開始。
2010年11月	市が「新球技場に係る基本方針」策定。建設候補地を小倉駅北口地区に決定。
2011年10月	市が「新スタジアムについて考えるシンポジウム」開催。
2011年10月～ 2012年2月	北九州市公共事業評価システムにおける「大規模事業」に相当する事業規模であるため、市の総務企画局が事務局の「公共事業評価委員会」において第1段階の事業評価を実施。
2012年4月	公共事業評価結果およびパブリックコメント結果等を踏まえ、新球技場整備事業についての「市の対応方針」決定。
2011年12月～ 2012年5月	市の市民文化スポーツ局が事務局の「新スタジアム将来イメージ検討会」において、将来像等について検討。
2012年7月	市が「新球技場の整備方針（案）」策定。コンセプトやPFI手法の導入を提示。
2013年2月～ 4月	「公共事業評価に関する検討会議」において第2段階の事業評価を実施。市は当初案から変更し、「収容規模を2万人から1.5万人に縮小」、「施設の海上へのせり出しは将来の拡張時とし、当初は市道の一部移設して陸上部のみに建設」、「これらに伴い概算建設費を100億円強から89億円に抑え、かつtoto助成金30億円を見込む」ことを提示し、委員会は同意。
2013年6月19日	市議会が、新球技場建設の早期着手をもとめる陳情を賛成多数で採択。
2013年6月25日	市議会の動向および公共事業評価のパブリックコメント結果等を踏まえ、市長が新球技場整備着手を表明。
2013年8月	市がタウンミーティング「新球技場について」開催。
2013年8月	市が「新球技場事業計画」策定。
2014年1月	市が「北九州市スタジアム整備等PFI事業の公募資料(案)」公表、事業者向け説明会開催。
2014年2月	「北九州市スタジアム整備等PFI事業」入札公告。
2014年6月	全国的な建設単価上昇等に対応し、市議会で債務負担行為の再設定（予定価格の増額）。
2014年7月	北九州市スタジアム整備等PFI事業の落札者を九電工グループに決定。
2014年9月	施設の正式名称を「北九州スタジアム」に決定。
2014年9月	以降落札者によって構成される特定目的会社の株式会社ウインドシップ北九州と北九州市がPFI事業契約を行い、設計・建設等を開始。
2017年3月	スタジアム供用開始予定。

（出所）南（2012）および北九州市Webサイト等をもとに筆者作成

ンスが無いため2015年の昇格は不可能）経営規模が小さく、人件費がJ2下位にとどまるギラヴァンツであるが、選手や監督・スタッフ等の頑張りにより、かつてJ1に所属していた大分、千葉、京都、福岡などを順位で上回り、J1優勝経験を有する磐田と競り合う勝点を上げているのだ。ま

た天皇杯全日本サッカー選手権においては、3回戦で前年度の天皇杯覇者の横浜F・マリノス（J1）にギラヴァンツは勝利した（2014年8月20日）。J1昇格は非現実的ではなく、J1ライセンスを得た後のクラブの頑張りによって実現可能であることを立証したシーズンとなった。

## 1.2 PFI事業者の決定

北九州スタジアムの整備は、民間事業者のノウハウを有効活用する観点から、設計・建設・維持管理・運営を一事業者が一括実施できるPFI事業として実施される<sup>(注3)</sup>。PFI法に基づいて整備されるスタジアムは、北九州スタジアムが日本初<sup>(注4)</sup>となる。

2014年2月に「北九州市スタジアム整備等PFI事業」の入札公告は行われた。この入札について特筆すべきは、事業内容として施設の整備・運営・維持管理・民間自主事業の実施に加え、「小倉駅新幹線口地区のエリアマネジメントに関する業務」を含んでいることであろう。事業者に対して、小倉駅新幹線口地区全体の活性化および賑わいの創出を図ることを目的に、エリアマネジメントへの積極的な協力、連携を行うことを義務付けている。これはスタジアムの4つのコンセプト<sup>(注5)</sup>の筆頭に掲げている「みんながつどい、にぎわいを生む“海ちか・街なか”スタジアム」に基づくものであり、北九州スタジアムが単なる「スポーツ観戦環境の整ったスタジアム」ではなく、「北九州の街や経済の活性化」を目的に整備されることを明確に示している。こうした方向性は高く評価できよう。

入札公告後、折しも全国的な建設単価の高騰が進み各地で公共事業の入札不調が多く発生する状況を踏まえ、市議会の議決を経て入札日前の2014年6月に予定価格が再設定された。結果として1グループから提案書の提出および応札があり、民間有識者による事業者検討会での審査を踏まえ、2014年7月に落札者は九電工グループと決定した。同グループは6社で構成され、代表企業は（株）九電工、設計・工事監理業務は（株）梓設計九州支社、建設業務は（株）奥村組九州支店・若築建設（株）北九州営業所・（株）九電工、維持管理・運営業務は美津濃（株）・（株）日本施設協会である。同グループは落札決定後、PFI事業の実施のための特定目的会社の（株）ウインドシップ北九州を設立した。市と同社の契約金額は、設計・建設および施設完成後15年間の維持管理・運営費を含む費用として107億2,762万9,690円（税込）となる。

同グループが提案したスタジアムの計画については、落札決定後に基本設計等によって改めて詳細に検討され、本稿発行時点（2014年12月）にはデザイン等は概ね明らかになっていると思われるため、北九州市Webサイト等でご確認いただきたい。筆者は審査を行ったスタジアム整備等PFI事業者検討会の構成員であり、当初の事業者提案に対し改善を求めたい事項について検討会で意見を述べた。スタジアム整備のコンセプトを着実に具現化し、小倉駅周辺のみならず北九州市全体に多様かつ大きな効果をもたらすスタジアムが整備されることを強く期待したい。もちろん、そのためにはPFI事業者と市のみならず、市民、まちづくりに関わる各種団体、（株）ギラヴァンツ北九州などが連携し、それぞれ重要な役割を果たしていくことが求められる。

## 1.3 全国で動きが見られる「まちなかスタジアム」構想への影響

2014年は東京の新国立競技場建設を巡る様々な議論があった年でもあったが、現在、市街地の中心部に「まちなかスタジアム」を整備しようとする構想が、広島、山形、富山など全国各地

で見られる。また、日本政策投資銀行は2013年に「スマート・ベニュー」概念を提唱し、コンパクトシティの中核施設として多機能複合型スポーツ施設を整備することの重要性を説いている（日本政策投資銀行、2013を参照のこと）。北九州スタジアムは先行事例として取り組まれることとなり、「まちなかスタジアム」が日本の街に好影響を与えるかどうか、大いに注目されている。こうしたことから、スタジアム整備を成功させることは、北九州の知名度・イメージの大幅向上につながるようになる。

## 2. ラグビーワールドカップ2019日本大会、2020東京オリンピック・パラリンピック関連でのスタジアム活用可能性

### 2.1 北九州市大規模国際大会等誘致委員会の設置

日本での開催が決定している大規模な国際大会であるラグビーワールドカップ2019日本大会、2020年東京オリンピック・パラリンピックは、2017年供用開始の北九州スタジアムの整備効果の1つである「まちなかにぎわいづくり」や「都市のイメージアップ」、また「スタジアムを活かした国際交流の進展」等を実現する絶好の機会と言えよう。そのため、北九州市の経済関係団体、スポーツ関連団体、観光関係団体、市議会、市役所等により、2014年7月に「北九州市大規模国際大会等誘致委員会」が設置され、北九州スタジアム活用策の検討等が進められている。

このうちラグビーワールドカップについては、北九州スタジアムを試合会場として国内選考に立候補する場合と、北九州スタジアムや市内の関連施設等を総合的に連携させて外国チームのキャンプ地として出場国への誘致活動を行う場合の2通りのスタジアム活用方法を比較考量し、2014年9月の会議においてキャンプ地誘致に専念することで意見集約した。

### 2.2 外国チームキャンプ地となることで期待される効果

北九州市大規模国際大会等誘致委員会においてラグビーワールドカップのキャンプ地誘致に専念することとした理由としては、試合会場となる場合と比較し、外国チームの滞在期間が長い（数週間にわたる）ことにより、市民との交流進展や北九州市の知名度向上への寄与が大きいと考えられること等が挙げられる。また、2019年にキャンプ地として実績を積むことが、2020年の東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致に直結することも期待できる。

なお、2002FIFAワールドカップ日韓大会においてカメルーンのキャンプ地として一躍有名になった地域として、大分県中津江村（現：日田市）がある。筆者は、2014年8月に2002年当時中津江村のキャンプ推進本部員として働いた職員に対しヒアリング調査を行った。キャンプ地になったことによる効果は「村の知名度が大幅に向上したこと」「村民の心に大きな財産が残ったこと」に尽きる、とのことであった。なお、経済効果については、キャンプ期間中は限定的だが、キャンプ後に知名度が向上して多くの人々が地域やスポーツ施設を訪れることで発揮された、とのことであった。今後キャンプ誘致をめざす地域に対しては、「地域住民をあげて、相手の国を知る、言葉を知る、文化を知ることを進め、心を込めて招待し、かつ選手が良い状態で試合に臨むことができる環境を整えることが重要」とのアドバイスをいただいた。北九州市においても今後の誘致活動に際しては、こうした点を特に意識すべきであろう。

### 3. 北九州スタジアムの整備効果を一層高めるために

北九州市が2009年から本格的な検討を開始した北九州スタジアムの整備は、段階を踏んで丁寧な議論が行われてきた。そのスタジアムで提供される主要コンテンツはガラヴァンツの試合であるが、様々な議論や整備事業が進む間に、ガラヴァンツはアマチュアリーグからプロリーグ（Jリーグ）に進み、経営体制等の強化も進み、またJ1を狙える力があることを実証する段階にまで成長してきた。一方、経営の安定化に向けてはさらなる努力が必要であり、また集客面での課題については大きな改善の余地がある。新スタジアムを有効活用していくためには、2017年初めに迫っているスタジアム竣工、そしてその後の長期にわたる運用期間に向け、ガラヴァンツと地域は継続的に努力していくことが必要である。

加えて、北九州スタジアムはラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピック関連での活用をはじめ、多様な活用可能性を有している。スタジアム整備効果を一層高めるようPFI事業者（ウインドシップ北九州）および市は、地域の各種団体等と連携しながら取り組みを進めていく必要がある。さらには各種団体や市民の方から、積極的にスタジアム活用の提案が行われることを期待したい。アジア、そして世界に向けて誇ることでできるスタジアムを創っていけるかどうかは、これからの地域の取り組みに懸かっている。地域をあげて、楽しみながら努力していくことが必要だ。

#### 注

- (注1) 例えば、2014FIFA ワールドカップで日本代表の試合会場となったレシフェ、ナタル、クイアバの各都市（いずれもブラジル）は、日本での知名度が大幅に高まったと考えられよう。
- (注2) なお、北九州スタジアムについてはネーミングライツの導入が今後検討されることとなっている。
- (注3) PFIの事業方式のうち、新スタジアムについてはBTO方式を採用した。BTO方式とは、事業者が資金調達してスタジアムを建設後、所有権を市に移転した上で、事業者が契約期間において維持管理・運営を行う方式である。
- (注4) なお、1999年のPFI法施行の直前に事業着手された神戸市の御崎公園球場（ノエビアスタジアム神戸）は、PFIと類似した事業スキームで整備されている。
- (注5) 4つのコンセプトは、「みんながつどい、にぎわいを生む“海ちか・街なか”スタジアム」、「夢と感動を生みだす“ダイナミック”スタジアム」、「環境未来都市にふさわしい“エコ”スタジアム」、「ものづくりの街北九州を発信する“街かどショールーム”」である。

#### 参考文献

- 日本政策投資銀行（2013）『スポーツを核とした街づくりを担う「スマート・ベニュー」－地域の交流空間としての多機能複合型施設－』
- 南博（2012）「北九州市の新球技場整備事業」、『東アジアへの視点』第23巻3号（2012年9月）、pp. 76～80
- 南博（2014）「集客低迷期のプロスポーツクラブのスタジアム観戦者実態と課題－2013年ガラヴァンツ北九州スタジアム観戦者調査結果から－」、『都市政策研究所紀要（北九州市立大学）』8、pp. 67～93
- 北九州市「スタジアムの整備」（[http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kanko/menu02\\_0054.html](http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kanko/menu02_0054.html)、2014年9月4日検索）